

# 学 校 の 現 況

# 1 教育目標

養成課程では、次代の農業を担い、指導的役割を果たし得る人材を養成するとともに、農業者等の研修を行い、もって農業の振興に資するため、農業に関する高度な知識・技術及び近代的な農業経営を実践する能力と、農村社会の発展のために必要な広い視野と社会性を培う。

研修課程では、就農に必要な知識と基本技術を実践的に教育し、研修修了後即就農できる人材を育成する。

# 2 教育・研修制度

## 1 養成課程

教育期間 2年

教育課程 第1学年 1年間在校

第2学年 11ヶ月間在校、1ヶ月間農家等留学研修

専攻コース 果樹コース、野菜コース、花きコース、作物コース、畜産コース

入寮制度 学生寮への入寮を希望する者が入寮する希望入寮制とする

学年		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 学年	講義	農業全般基礎学習						専攻別基礎学習						
	実習	基礎的栽培実習						プロジェクト実習						
2 学年	講義	専門学習(流通、販売、経営)				農家留学研修 (26日間)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・総括学習</li> <li>・卒業論文</li> <li>・農業経営計画</li> </ul>					
	実習	プロジェクト実習												

## 2 研修課程

社会人等新たな就農希望者を対象に、就農に必要な知識と基本技術を実践的に習得する。

### (1) スキルアップ研修

- ①研修の特徴 栽培実習を中心とし、栽培や農業経営の知識および技術を習得する。
- ②教育期間 長期研修（1年間）、短期研修（4カ月間）
- ③開講時期 長期研修（4月、10月）、短期研修（4月、6月、7月、9月、3月）
- ④専攻 果樹、野菜、花き、作物、畜産

### (2) 先進農家実践研修

- ①研修の特徴 就農予定地の先進農家のもとで農業の実践ノウハウを習得する（派遣型研修）。
- ②教育期間 1年間
- ③開講時期 6月、10月、2月
- ④専攻 就農部門

### (3) アグリチャレンジ科

- ①研修の特徴 農業の基礎知識と実践に生かせる基本技能を学ぶ「公共職業訓練」。
- ②教育期間 3か月
- ③開講時期 6月、10月、2月

## 3 教育方法

### 1 養成課程

#### (1) 第1学年

##### 〈農業全般基礎学習〉

- ・入学後から7月下旬までの4か月間は、講義・実験・演習により基礎的科目を履修するとともに、全員実習を通じて基本的な栽培管理技術を習得する。また、この間に専攻作目の基礎的技術の習得と併せ、農業の各分野にわたる技術・知識を習得する。

##### 〈専攻別基礎実習〉

- ・9月から専攻コース別に2年生と共に実習を行い、専攻コースの本格的な実習とプロジェクト学習を開始する。

##### 〈講義等〉

- ・前期は農業基礎学科の講義・実験・演習を修得し、後期は専攻別の科目を修得する。

#### (2) 第2学年

##### 〈専攻別基礎学習・プロジェクト学習〉

- ・9月までは学生の自主性を活かしながらプロジェクト学習を進める。
- ・学生が自主的に組み立てた栽培計画により、各作物等の栽培管理を行う。また、個別に設定した課題を解決する学習方法を通じ、専門的な知識・技術を習得する。

##### 〈専攻別総括学習〉

- ・10月以降はプロジェクト課題をまとめるとともにその内容を深め、卒業論文としてまとめ、1月中旬に発表し、清書・提出する。

##### 〈講義等〉

- ・流通、販売、経営を中心とした専門学習を行い、農業経営における専門的な知識・技術を習得し、ビジネス感覚の養成に努める。

##### 〈農家等留学研修〉

- ・7月下旬から9月までの間に26日間の先進農家等で留学研修を行い、農業経営、農家生活への理解を深め、就農時の経営計画作成や地域の農業振興に対する意識を醸成する。
- ・研修の受入れ先の選定にあたっては、本人の進路の意向を踏まえ、地域・経営形態等を考慮し、決定する。

### 2 研修課程

#### (1) スキルアップ研修

- ・野菜および花き専攻の場合は、個別に担当品目を設定し、施肥設計、栽培管理、収穫・調整・出荷等の一連の作業を経験し、就農計画作成演習、農家実習等を等を通じ、実践力を習得しながら就農イメージを固める。
- ・果樹、作物および畜産専攻の場合はグループ形式により専門知識・技術の学習を行い、就農計画作成演習、農家実習等を等を通じ、実践力を習得する。

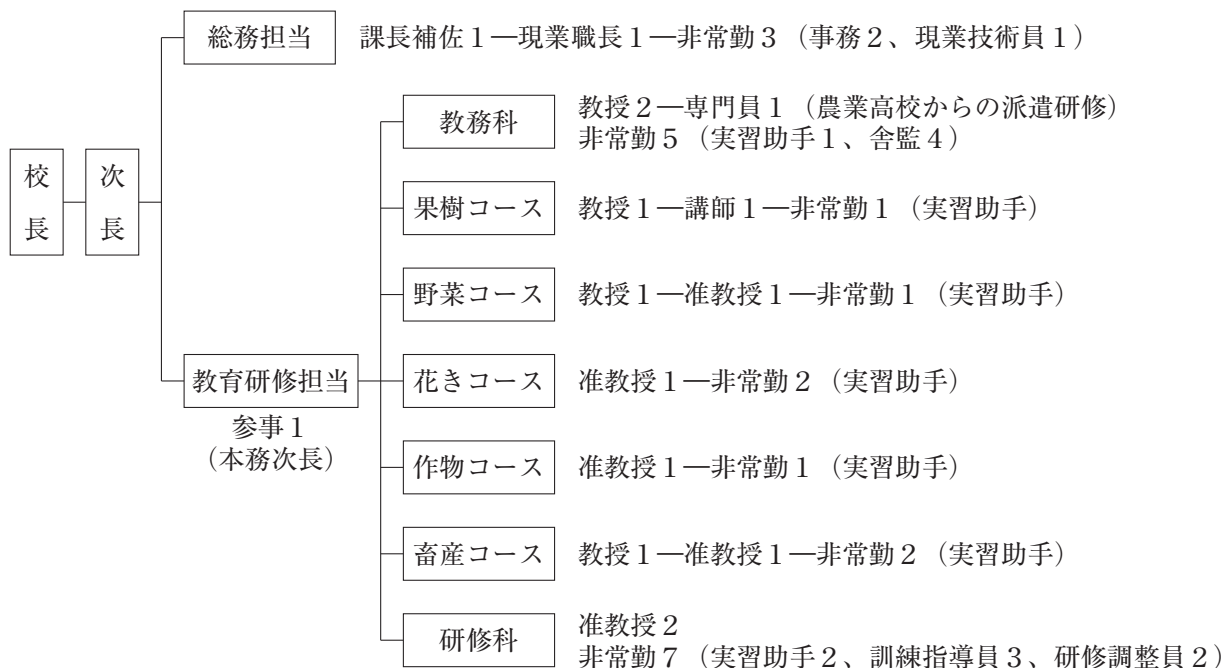
#### (2) 先進農家実践研修

- ・就農希望地域において、就農品目の栽培に係る実践技術と経営ノウハウを先進農家からマンツーマンで学ぶ。

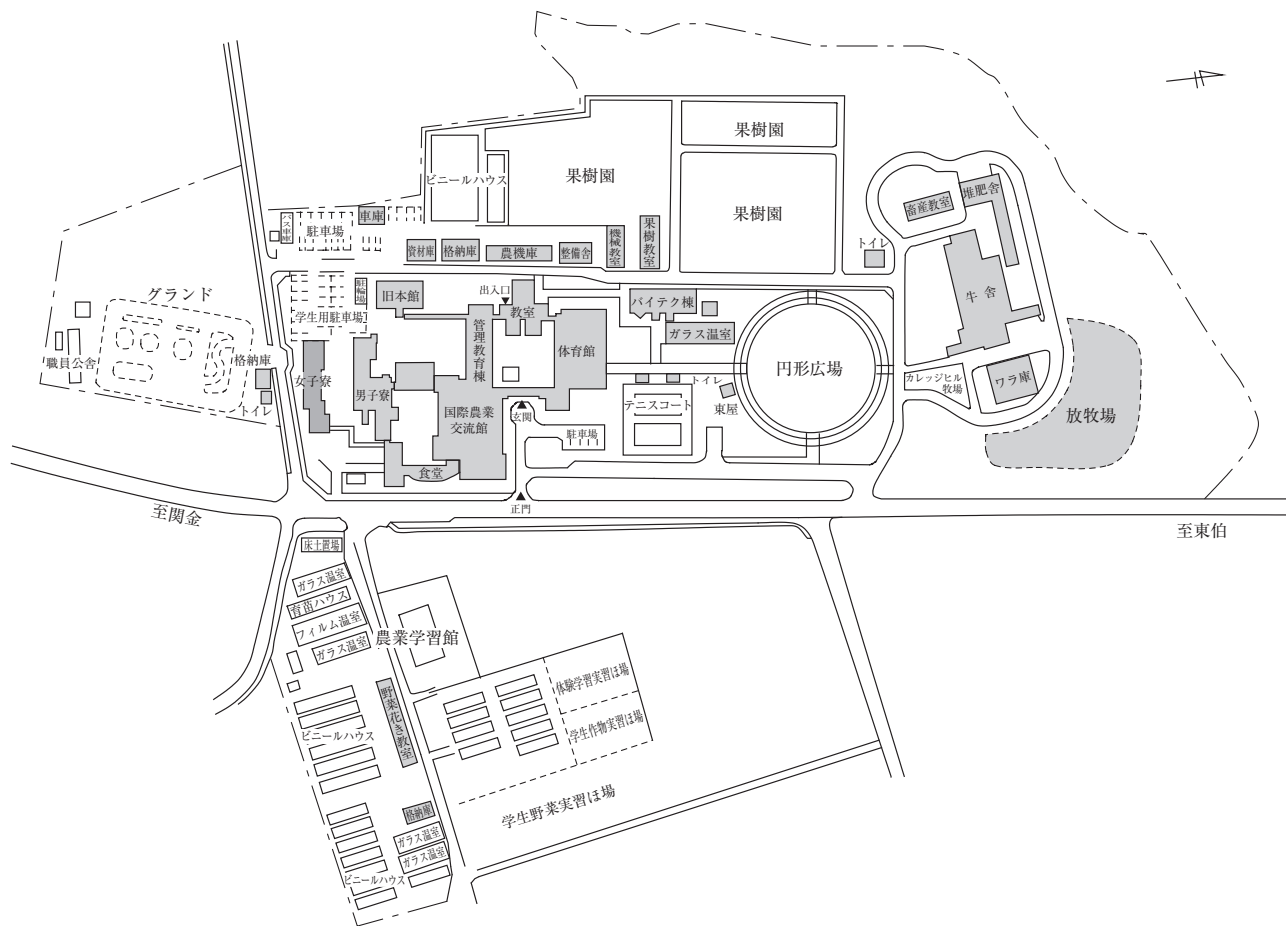
- ・就農に向けた農地や作業場の確保、中古機械の調達、住居の世話等各種支援を地域ぐるみ、農協生産部全体で実施することを基本とし、各関係機関とともに作成した「新規就農サポート計画書」に沿って、個別の就農支援を行う。
  - ・公共職業訓練「アグリチャレンジ科」を修了する等、農業の基礎知識・基本技術の習得者が対象。
- (3) アグリチャレンジ科
- ・座学、技能演習、栽培管理実習で構成し、全研修時間の6割を技能演習とする技能習得を重視した研修。
  - ・技能演習では、トラクターの操作と耕耘、作業機の脱着とロータリー爪交換の方法、刈払機の取扱い、管理機の取扱い、フォークリフトの操作、農業機械全般の保守点検方法、燃料の基礎等機械操作・点検の習得を行うとともに、小農具の扱い方、肥料・薬剤散布のポイントを学ぶ。
  - ・公共職業訓練であり、求職者で公共職業安定所長の受講指示、受講支援又は支援支持が得られることが前提。

## 農業大学校組織図

平成30年4月1日現在



# 農業大学校見取図



# 施 設 の 概 要

平成30年4月1日現在（単位：㎡）

区分	施 設 名	面 積	備 考	
建物施設用地	管理教育棟、学生寮、体育館、食堂、現場教育施設、整備舎、格納庫、資材庫、グラウンド、バイテク施設等	52,331		
	国際交流館、円形ひろば、機械室等	7,808		
	計	60,139		
農 場	果 樹 科	建 物 施 設 用 地	234	現場教室、資材庫等
		ハ ウ ス ( ぶ ど う 等 )	1,280	ピオーネ、シャインマスカット等
		青 な し	2,110	ゴールド二十世紀等
		赤 な し	4,190	新甘泉、秋甘泉等(防蛾灯及び網掛け施設)
		か き	1,050	富有、西条等
		り ん ご	680	ふじ等
		そ の 他	1,240	モモ、ウメ等
		(小 計)	10,784	
	野 菜 科	建 物 施 設 用 地	2,489	現場教室、農機具庫等
		ハ ウ ス 用 地	2,128	鉄骨350パイプハウス1, 350ガラス温室428
		露 地 畑	3,000	転作田
		(小 計)	7,617	
	花 き 科	建 物 施 設 用 地	2,488	現場教室、農機具庫等
		ハ ウ ス 用 地	1,465	パイプハウス1, 125ガラス温室340
		(小 計)	3,953	
	畜 産 科	建 物 施 設 用 地	6,737	畜舎、運動場、ワラ庫、堆肥舎
		牧 草 ・ 飼 料 作 物 畑	42,992	
		牧 草 ・ 飼 料 作 物 田	24,596	
		牧 草 ・ 飼 料 作 物 田	18,783	(借地)
		牧 場	8,000	
		(小 計)	101,108	
	作 物 科	水 田	100,000	(借地)
		(小 計)	100,000	
	研 修 科	建 物 施 設 用 地	932	農業学習館
		ハ ウ ス 用 地	600	パイプハウス6棟
		研 修 用 実 習 ほ 場	2,772	作物、野菜、花き研修用
		全天候実習ハウス(タスコドーム)	228	雨天時の農作業実習用ハウス
(小 計)		4,532		
そ の 他	いこいの森、急傾斜、未利用地	10,821		
	(小 計)	10,821		
	計	238,815	(借地を含まず：120,032)	
そ の 他	道 路 ・ 水 路 等	13,710		
	合 計	312,664	(借地を含まず：193,881)	